

小笠原村教育委員会教育長  
桐川 勲 様

小笠原村立母島中学校長  
井口 寛隆  
(公印省略)

令和 5 年度 小笠原村立母島中学校 学校評価の結果等に関する報告

標記の件について、下記のとおり報告します。

記

1 本校の教育目標及び教育目標を達成するための基本方針

【教育目標】

母島を誇りに思い、共によりよい社会を築くことのできる人間を目指し、自ら困難を乗り越え、思いやりをもって心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成を図る。

一. 意欲的に学ぶ生徒                      一. 自らきたえる生徒                      一. 社会のために尽くす生徒

【基本方針】

教育目標を達成するために、「確かな学力」「豊かな人間性」「健やかな体・安全」を基礎となるものとして設定する。その基礎を元に築きあげていくものとして「常識」「学年(学級)の力」「心の交流」を大切にする。更に基礎を支えるもの(土台)として「地域との相互連携」「組織的・計画的・円滑な学校運営」「信頼される教職員」の充実を図っていく。

2 今年度の学校経営方針において重点課題として設定した項目及びその実績

【重点課題として設定した項目】

・『確かな学力』生徒に自ら学び自ら考える力等の「生きる力」を育むため、「基礎的・基本的な知識・技能」の確実な習得を図るとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力」を育成する。

・『豊かな人間性』教師と生徒、生徒相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域との連携を図りながら、生徒の内面に根ざした道徳性の育成を図る。

・『健やかな体・安全』体力テストの結果分析を踏まえ、生徒の運動への関心を高めるとともに、体力向上に関わる学校全体の課題や各生徒の課題の解決に取り組む。

【実績】

・『確かな学力』小笠原村学力調査における全国との比較によると、5教科の標準スコアにおいて、1年生 51.7 (最大値 62.8、最小値 42.3)、2年生 48 (最大値 56.6、最小値 42.8)、3年生 49.6 (最大値 51.3、最小値 48.6) と概ね全国と同等レベルの基礎学力であるといえる。ただし、最大値、最小値見ても分かるように小集団が故に個人の成績が大きく影響を及ぼしている結果である。小集団であることの利点を生かし、個に応じた学習支援を進めていく。また、令和 5・6 年度小笠原村小中一貫教育研究推進指定校として「表現する力」の育成に励んでいる。児童・生徒の授業の振り返り等を見ると、授業が進むにつれて既習用語が使われるなど、「表現する力」の向上が見られる。今後さらに検証方法を検討しながら「表現する力」が「確かな学力」にどうつながっていくのかを研究していく。

・『豊かな人間性』各学年、計画的に特別な教科道徳の授業を進めている。生徒の授業振り返りからも

自我関与する場面が多く、自分事としてとらえ、実生活にどう生かしていくのかを考えることができている。ただ、人数が少ないことや、様々な経験が少ないので、多様な考えを出させることには課題がある。また、道徳授業地区公開講座では多くの保護者、地域の方にも参観していただき「道徳授業は他の教科と違い、私自身も考えることで、家庭においても活用できると思いました」「子供の成長を見ることができ面白かった」など肯定的な意見をいただいた、授業公開後の意見交換会には昨年度の倍以上の保護者が参加してくださり、活発な意見交換を行うことができた。

・『健やかな体・安全』今年度の体力テストの全校生徒の段階別出現率を見ると A54%、B31%、C15%、D以下は0%という結果であった。これは令和4年度全国のA評価出現率が15.5%(男子7.7%、女子23.4%)であることから見ても高い数字である。これは、小学生の頃から様々なスポーツに関わってきた生徒が多い結果であると考えられる。ただ、小集団が故に個人の記録が大きく影響を及ぼしている結果である。今後、個人個人が体力テストの結果を踏まえ、自分自身に合ったトレーニングを実施できるよう支援していく。

### 3 関係者評価の概要

・学校評価アンケートは経年変化を見るため、平成28年度からほぼ同じ内容16項目(ただし、項目数は対象者によって変わる)、5件法で11月に実施した。今年度のアンケート対象者は「地域協力者(14項目)5名」「中学校教員(16項目)10名」「小学校教員(16項目)9名」「中学校保護者(16項目)14家庭」「小学校保護者(16項目)20家庭」「5年生以上児童(10項目)7名」「生徒(10項目)14名」。回収率は「地域協力者100%」「中学校教員80%」「小学校教員66.6%」「中学校保護者85.7%」「小学校保護者85%」「5年生以上児童100%」「生徒92.8%」だった。

・学校評価アンケートにおいて生徒、保護者の合計肯定率が最も高かった質問は「通知表では努力や達成度が適切に評価されているか」であり、生徒100%、保護者83.3%(そのうち1名は「わからない」を回答)を示している。これは、教員が都教委訪問校内研修を実施し、指導と評価一体化について学んだとともに、「評価の材料」を生徒、保護者に示すことにより、更に信頼される評価になったと考える。

・学校評価アンケートにおいて生徒、保護者の間で最も評価が分かれ、合計の肯定率が最も低かった質問は「子供たちに必要な学習や進路に関する情報が十分に提供されていると思うか」であり、生徒100%、保護者66.6%(そのうち1名は「分からない」を回答)であった。これは、生徒に対しては学校内で直接学習の仕方や、進路についての情報を伝えているが、保護者には情報提供している学年だより、進路だよりなどが手元までは届いていない可能性も考えられる。来年度から導入される校務支援システムを有効活用し、保護者に確実に情報が伝わるようにしていく。

・学校評価アンケートにおいて地域からの肯定率が100%だった項目は「子供の個性、能力を伸ばす工夫」「小中一体化の取組」「生徒の生活態度等に対する適切な指導」「適切な防災計画、避難訓練」「学校行事の充実」「各種便りやホームページによる情報提供」「学校施設の開放及び有効活用」であった。これはコロナの影響も少なくなり、授業、行事など学校の様子を見ていただける機会が増えたこと。学校だよりを全島配布することにより情報が伝わった結果であると考えられる。

・学校評価アンケートにおいて地域からの肯定率が最も低かった質問は「教育目標が分かりやすく示された上で、教育活動が行われているか」であり、50%であった。9月に行われた開校50周年記念式典後のアンケートや自由記述欄にも「(式典に対して)学校側が目指す方向性が見えなかった」「地域に見えない中で準備が進められていた」などの意見もあった。式典準備を始めた昨年度はコロナ禍にあり、縮小方向で準備を進めていたが、その方向性が地域に伝わっていなかった可能性が大きい。今後、学校運営連絡協議会の再開も含め、地域と話し合いながら進めていく方向性を模索していく。

4 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の 重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組 ①	「基礎的・基本的な 知識・技能」の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2日程度、登校後の10分間をベーシックタイムとして5教科の教員が輪番で回り、学習課題を提案し学習を進めている。</li> <li>・小笠原村教育委員会研究指定校として「表現する力」について研究を進めている。また、日頃から少人数の特性を生かし、1人1人の授業中の発言回数を増やすことで、自らの考えを表現する力の向上に役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の集中している姿が見られ、全国学力調査の結果から見ても一定の成果が出ていると考える。ただ、個人個人課題が異なるため、今後それぞれに合った課題が提供できるようにしていく。</li> <li>・今年度はまだ研究途中であるが、「授業の振り返りの記述に既習事項の単語が増える」「プレゼンテーションソフトを有効に活用し、自分の考えを相手に伝える」など表現力は高まっているように感じる。</li> </ul>
取組 ②	豊かな人間性 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と生徒の人間関係を深めるための1つの手段として、年3回のふれあいアンケートを行うとともに、担任を中心とした2者面談を行っている。また保護者も含め、学校関係者以外との面談(カウンセリング)を行えるようにした。</li> <li>・道徳の授業では全教員が輪番で指導に関わることにより、多面的・多角的に考えさせる授業を展開した。ただし、授業の振り返り等については、変更すると生徒が混乱する恐れがあることと、変化が見取りにくいいため、学年で統一した様式で行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいアンケートの内容を基に面談を行うことで、より話しやすい雰囲気醸成された。その結果、学校評価アンケートにおける「相談にいつでも丁寧に応じているか」の項目について肯定率が生徒100%、保護者83.3%に繋がったと考える。肯定的な回答をいただけなかった保護者には、学校関係者以外との相談も視野に入れて対応していく。</li> <li>・指導内容は基より、指導者が変わることで展開の仕方も変わり、より多面的・多角的に考えさせる授業を行うことができた。また、振り返りについても、統一した様式を用いることで生徒の判断力・心情・実践意欲と態度の変化に気付かせることができたと考える。</li> </ul>

<p>取組 ③</p>	<p>健やかな体・安全</p>	<p>・体力テストの学校全体結果を見ると、持久走の全国 T スコアが 49.01 と最も低い。それを改善するため 1 2 月に行われるロードレース大会の練習時から自分に合った目当てを設定させるとともに、全体での総走距離を視覚化させることで所属感、貢献感をもたせることで意欲的に取り組ませる授業を展開した。</p>	<p>・ロードレース大会の個人成績から見ると自己ベストを更新、または昨年度の記録を大きく上回る生徒が数多くいた。また、態度からも意欲的に取り組む姿が多くみられ、個人目当ての作成、総走距離の視覚化は成果があったと考える。</p>
-----------------	-----------------	--	---

## 5 次年度の学校経営において重点的に取り組むべきと認識する課題

<p>・小笠原村小中一貫教育研究推進指定校</p> <p>教育目標にある「母島を誇りに思い」をより発信できる生徒を育てるために「表現する力」の育成に力を入れる。各授業の振り返りを丁寧に行うことで、生徒自身が「表現する力」が身に付き、向上していることを実感できるような授業の展開を目指す。2月の研究発表ではその成果を広く発信できるように準備を進めていく。</p> <p>・信頼される学校</p> <p>教職員一人一人が教育公務員としての自覚と誇りをもち、法令等を遵守し、信用失墜につながる服務規律違反がないようにする。そのために、毎月行われる小中学校別の部会で管理職による服務研修を行う。また、毎月東京都から届く服務レター及び服務事故報告を回覧し周知することにより服務事故を起こすことの重大さについて理解させることにより信頼される教職員にする。</p> <p>授業、学校行事等の公開を積極的に行い、教育活動について保護者・地域住民等に理解を深めていただくとともに、計画的に地域諸活動に参加することで地域との相互連携・協力を密にし、外から見える学校づくりを推進することで信頼される学校にする。</p>
--

\*本報告書各項目の記載内容は、次年度の教育課程及び学校経営方針等学校経営に係る各種資料へ反映いたします。